



節に心倒さず 新たな一步を

原 節子さん 74歳・川野春分教会春誠布教所
ようぼく・埼玉県越谷市

2年前に布教所長を務めていた夫が出直しました。この大節に心を倒し、30年来続けてきたにをいがけに出られずにいました。そんななか、今年1月、今度は布教所につながる信者さんが出直す節を見せられたのです。「どうして、あんなに良い人が……」と胸が詰まる思いでした。

しかし、これらの節を通じて、親神様は私に成人を促されていると思い直し、新たな一步を踏み出そうと、先ごろ戸別訪問を再開しました。

そんなある日、以前からの通い先だった、ひきこもりの息子さんを抱える家庭を久しぶりに訪ねました。そのとき、長年引きこもっていた彼

が、最近になって部屋の外へ出るようになったことを知ったのです。

理由を尋ねると、昨年11月、父親のがんが発覚し、そのころから次第に外へ出るようになったとのこと。「なんとか立ち直ってほしい」という父親の思いを汲み取り、思いきって外の世界へ踏み出した彼の勇気を思うと、私も勇み心が湧いて、前向きな気持ちになりました。

いまの目標は、この三年千日の間に彼を修養科へ導くこと。その伏せ込みの意味を込めて、今後にもをいがけ・おたすけに励み、一人でも多くの人に教えを伝えられるよう努めたいと思います。



先輩教友の姿に 励まされ

梶村忠弘さん 32歳・高槻分教会長後継者
大阪府高槻市

教祖140年祭へ向かう三年千日活動として、月に数回、周辺地域のにをいがけに歩いている。

きっかけは、所在する三島支部が推進するリーフレット配りにある。同支部では、にをいがけ用のリーフレットを独自に作成し、支部内の全50万世帯へにをいがけをすることを三年千日の目標に掲げている。

10年前の教祖130年祭活動の折、社会人になったばかりの私は、仕事の忙しさから、満足に三年千日を通ることができなかった。そんななか、周りの教友が数々ご守護を頂いている姿を目の当たりにし、三年千日は「成人の旬」であり、ご守護を頂ける旬なのだ実感した。

今回の年祭活動では、幼少からお世話になっている支部内の先輩たちが「50万世帯へのにをいがけ」という大きな目標に向かって取り組んでいることを知り、及ばずながら私も役に立ちたいと思った。

にをいがけの日は、一人でリーフレットを片手に歩くこともあれば、支部の先輩と共に歩くこともある。印象的なのは、先輩たちが楽しみながらリーフレット配りに勤しんでいる姿だ。そのおかげで、私も一層勇んで実動できている。

これからも、私なりに精いっぱい、にをいがけに励み、年祭当日には少しでも成人した姿を、親神様・教祖にご覧いただきたい。